

宇宙探査シンポジウム及び国際宇宙探査戦略に関する ワークショップの開催結果について

平成 19年 3月 14日
宇宙航空研究開発機構
理事 井上一

1. 報告事項

平成19年3月6日～9日に京都で開催された宇宙探査シンポジウムおよび国際宇宙探査戦略に関するWSについて報告する。

2. 概要

2.1 宇宙探査シンポジウム

2.1.1 開催目的

これまでJAXA関係者を中心として進めてきた月惑星探査に係る検討活動を、広く国内研究機関(産学官)の専門家等に拡大し、今後の月惑星探査プログラムを全日本的に推進していくための端緒とする。

2.1.2 開催概要

(1) 開催日時・場所

開催日時:平成19年3月6日(火)9:00～18:30 (懇親会18:45～)
7日(水)9:00～18:00

開催場所:ホテルグランヴィア京都

(2) 参加者: 平成19年3月6日(火):272名

7日(水):355名

<内訳>

	6日(火)	7日(水)
一般来場者	191名(内JAXA 28名)	255名(内JAXA 25名)
講演者	27名	32名
プレス関係者	6社10名	8社18名
WS関係者	44名	50名
計	272名	355名

開催にあたっては記者発表、関連企業・大学等へのポスター・ちらしの配布、公開ホームページへの掲載等による周知活動等を実施。

2.1.3 開催結果

(1) 基調講演 樋口理事、NASA 長官、ESA 長官等

現状の探査に関する国際協力の協議状況、諸外国の探査構想、宇宙探査の戦略、国際協力に対する基本的な考え方等を紹介した。

(2) パネルディスカッション1「月探査への期待」

無人・有人の月探査の意義、月探査計画における国際協力及び日本の位置づけ等について、議論した。意義については以下発言があり。

月探査は国際共同で進められる人類共通のチャレンジであり、継続することによって人類共通の財産を獲得することが可能。例えば、科学的知見だけでなく、新規技術、次へのステップ、教育的効果等。JAXA も短期的に具体的な成果があがるものだけでなく、探査のような長期的な視野に立った挑戦を続けなければ未来につながらない。国際協力のありかたについては、国際ルールを策定し、これを遵守しながら探査を進めることが重要。

(3) パネルディスカッション2「JAXA の宇宙探査取り組みへの期待」

宇宙探査への期待、JAXA 探査の舵取り、外部研究者の参加、国際協力の進め等について、議論した。宇宙探査への期待については以下発言があり。

宇宙探査への期待については、着実な探査技術の発展、火星以遠を目指した木星探査の実施等が述べられた。JAXA の探査の舵取りについては、長期的視野のロードマップを作り、失敗しても探査の取り組みを止めない仕組みが求められた。外部研究者の参加については、外部より参加しやすい仕組みの設置が求められた。国際協力の進め方については、国際探査戦略(GES)策定の意義が述べられ、国際協力を前提とした将来計画の立案や、役割分担をシステムティックに進めることが重要。

(4) 展示

シンポジウム来場者を対象に以下の展示を行った。

- ・はやぶさ(1 / 2)
- ・ISS 模型(1/100)
- ・宇宙食(ショーケース付)
- ・宇宙服レプリカ
- ・SELENE(1 / 10)
- ・HTV 模型(1 / 20)
- ・月面ローバー

2.1.4 まとめ

- ・ NASA、ESA 長官等の参加を得て、平日・京都での開催にも関わらず予定規模(約 300 名)を超える参加者を確保した。アンケート結果によると、参加者の反応は概ね好評(回答者の72%が有益であったとの回

答)であり、我が国が進める宇宙探査に関して、広く JAXA 外、国内研究機関(産学官)の専門家等との対話を開始する最初のシンポジウムとして、初期の目的を達成した。

- ・ 今回の成果を踏まえ、引き続き JAXA の宇宙探査、更には我が国の宇宙開発計画に対して、広く JAXA 外の専門家等との対話を行う、今回のシンポジウムのような機会を継続的に確保することが必要(会場からも要望あり)。

2.2 国際宇宙探査戦略に関するWS

参加機関 14 ASI(イタリア)、BNSC(英国)、CNES(フランス)
CNSA(中国)、CSA(カナダ)、CSIRO(オーストラリア)
DLR(ドイツ)、ESA(欧州宇宙機関)、ISRO(インド)
JAXA(日本)、KARI(韓国)、NASA(米国)
NSAU(ウクライナ)、Roscosmos(ロシア)
(MEXTより坂口企画官も参加)

2.2.1 成果の概要

(1) フレームワーク文書の担当レベルでの合意版完成

宇宙探査の意義や国際調整のあり方について 14 機関の共通理解をまとめたフレームワーク文書について最終調整を行い、担当レベルでの合意に達した。フレームワーク文書については、国際的な約束となっているものはないが、今後国際調整メカニズム構築に向けて調整を進めることとしている。

本文書は、2 週間程度の編集専門家による校正および誤記訂正のレビューを経て、合意版として 4 月上旬にホスト国である日本から各機関へ配布される。

各機関ではそれぞれの状況に応じた処置(例えば承認手続き)を行う。
なお、本文書を公開するかどうかについても参加機関間で調整中。

(2) 具体的な国際協力アイテムについてのキックオフを JAXA 主導で実施

将来の太陽系探査ミッションにおける科学ペイロードの搭載機会、及び太陽系探査ミッションから得られる科学データの共有する仕組みについて JAXA より提案し、今後「国際調整メカニズム」でこれらの課題に関する調整を進めていくことが合意された。

(3) 国際調整メカニズムに関する議論の開始

各国の宇宙機関が、宇宙探査の計画を共有し、協力の機会を探っていくための調整メカニズムの設定に向けて、議論を開始した。

(4) 記者会見、及び報道結果

最後にWSの結果について(各国共同ではなく) JAXAから記者会見を行うと同時にプレスリリースを行った。記者会見には海外機関のうちCSA、

ISRO, KARI, CNSAを除く9機関が列席した。参加したメディアはすべて国内からであり、NHK、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、日経新聞、京都新聞、時事通信の(7社12名) が参加した。

なお、記者会見に伴う報道結果は以下であった。

< ニュース > 3/10(土) : NHKニュース(全国) 01:05から(約1分半)

< 新聞社、通信社 >

3/9(金) : 時事通信

3/10(土) : 朝刊 朝日新聞、読売新聞、日経新聞、毎日新聞、
京都新聞

2.2.2 所感

アジアでの初めての開催であったが、昨年4月から進められてきた Global Exploration Strategy (GES)の調整に関して、日本(京都)において最初のアウトプットでもあり今後の調整の基礎ともなるフレームワーク文書を合意に導くことができ有意義であった。

2.2.3 今後の展望

フレームワーク文書という今後の調整の基礎となる文書が整ったことで、今後は国際協力の調整メカニズムや具体的な国際協力の調整に重心が移されていくと予想される。

- 5月29日～6月1日 : 次回調整会議(イタリア)

以上